



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	ロータス静岡	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

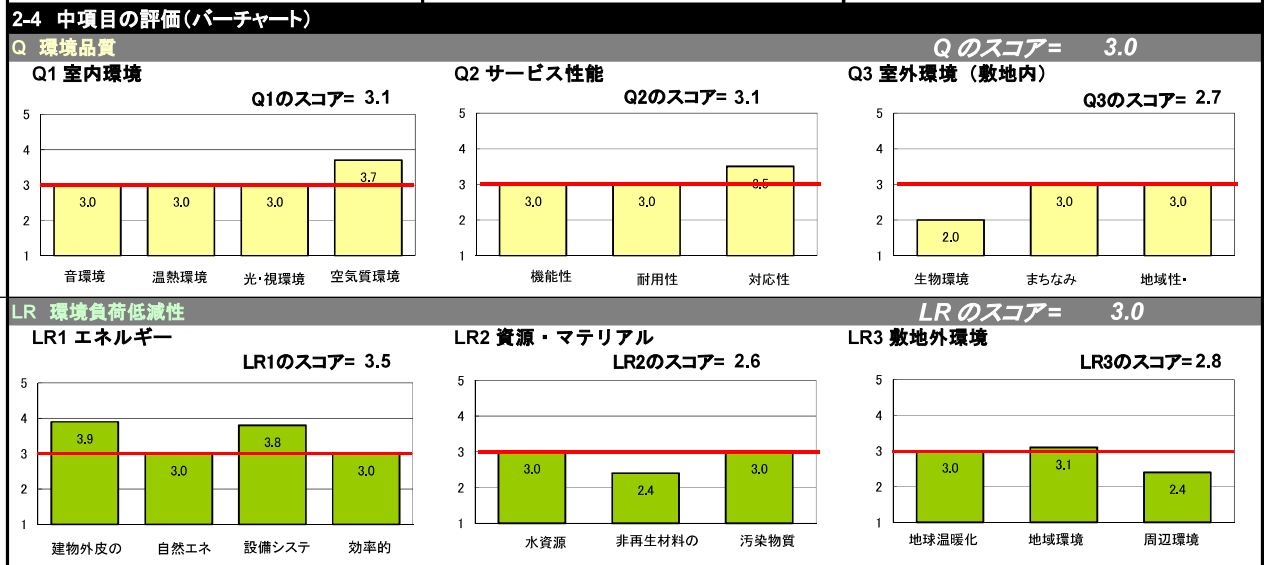
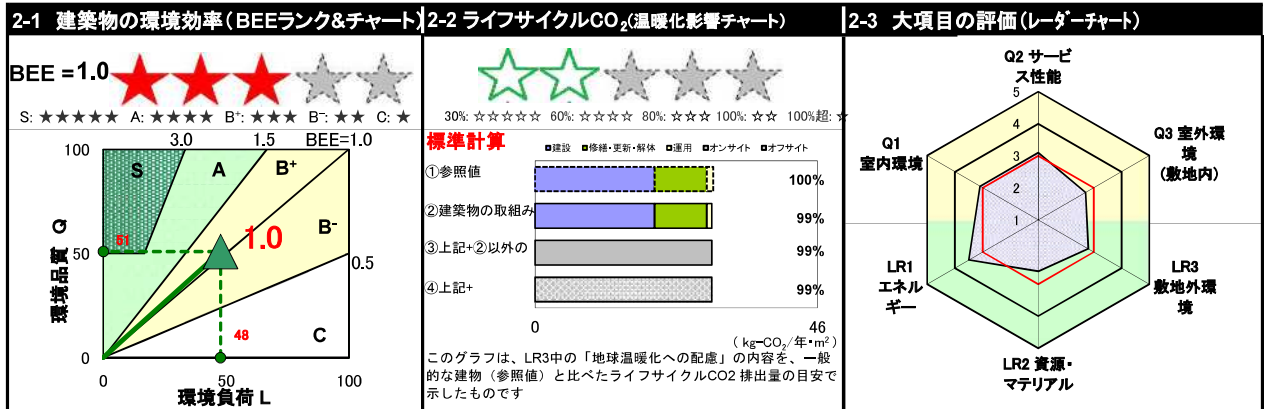
3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①外皮性能において断熱等級4相当で計画。 ③バルコニー兼庇によりグレアを制御。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑥中木やバルコニー兼庇を設け、日陰を形成。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦建物全体で断熱等級4相当で計画。 ⑨一次エネルギー消費性能BIE=0.91にて計画。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1,2</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1,3</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2,1</p> <p>2.2,2</p> <p>2.2,3</p> <p>2.2,4</p> <p>2.2,5</p> <p>2.2,6</p> <p>Q-3 1</p> <p>3 3.2</p> <p>LR-1 1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4 4.1</p> <p>4.2</p> <p>LR-2 1</p> <p>1.1</p> <p>1.2 1.2,1</p> <p>1.2,2</p> <p>2 2.1</p> <p>2.2</p> <p>2.3</p> <p>2.4</p> <p>2.5</p> <p>2.6</p> <p>3 3.1</p> <p>3.2 3.2,1</p> <p>3.2,2</p> <p>3.2,3</p> <p>LR-3 1</p> <p>2 2.2</p>	<p>① 外皮性能</p> <p>② 昼光利用設備</p> <p>③ 昼光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p> <p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p> <p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰可能な限り配管の系統を区分し、災害時の使用不可部分の低減する。 ⑰電気設備・精密機械の地下空間への設置を避ける。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1,1</p> <p>2.1,2</p> <p>2.4 2.4,1</p> <p>2.4,2</p> <p>2.4,3</p> <p>2.4,4</p> <p>2.4,5</p>	<p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p>	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱静岡県福祉のまちづくり条例の基準の項目の半分以上を満たす。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑庇等の設置や前面道路に面する部分の緑化など街並みに配慮。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1,3</p> <p>3 3.1 3.1,1</p> <p>3.1,2</p> <p>Q-3 3 3.1</p>	<p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上)</p> <p>㉒植栽により良好な景観の形成</p> <p>■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善)</p> <p>㉓主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	<p>Q-3 1</p> <p>2</p> <p>3 3.2</p> <p>LR-2 2 2.5</p> <p>LR-3 2 2.2</p>	<p>⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>㉒ まちなみ景観への配慮</p> <p>㉓ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑳ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>㉓ 温熱環境悪化の改善</p>		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ロータス静岡	階数	地上12F
建設地	静岡県静岡市駿河区泉町67番1他	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	236人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年6月12日
敷地面積	1,332㎡	作成者	中谷 遼
建築面積	633㎡	確認日	
延床面積	6,569㎡	確認者	



3 設計上の配慮事項		その他
総合 これは、CASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 静岡駅からほど近い好立地を活かして、単身者とファミリー層を入居者ターゲットとした住戸プランとし、入居者の動線と併設している事務所の動線が交錯しないように配慮した計画としている。		
Q1 室内環境 一般的に必要なとされる空調・換気性能を満たし、居住しやすい設備計画とした。	Q2 サービス性能 設備配管は耐用年数の高い管材を採用し、長期間の使用に耐えられる計画とした。	Q3 室外環境 (敷地内) エントランス廻りを緑化し、景観的に配慮した計画とした。また、附置義務台数を上回る駐車場、駐輪場を確保した。
LR1 エネルギー 特に配慮無し。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓には節水コマを使用する等水資源の保護を行っている。	LR3 敷地外環境 降雨の多い地域であることを考慮し、雨水樹の一部に浸透樹を採用し本管への放流量を低減する計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される